

農産FAX情報 第4号

令和5年7月1日

発行：ゆとりみらい21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

赤かび病の防除

○赤かび病は、湿度が高いと多発しやすく、降雨や濃霧により発生が助長されます。天気が崩れる前に防除を行い、臨機防除を行う際は、薬剤の使用時期・回数に注意しましょう。

2 てんさい

(1) ヨトウガの防除

○発生状況を確認し、若齢幼虫のうちに防除を行きましょう。

(2) 褐斑病および根腐病の防除

○一部ほ場で褐斑病の初発が確認されています。高温多湿条件で発生が増加します。天気予報を注視し、7月上中旬に予防防除を行きましょう。

表1 褐斑病および根腐病の防除薬剤例

薬剤名	系統名	使用倍率	使用時期	使用回数
グリーンダイセンM水和剤	ジオカーバメイト	400～ 500倍	21日前	5回以内
ムケツDX	ジオカーバメイト テトラゾリノン	500～ 800倍	21日前	3回以内

3 ばれいしょ

(1) 疫病の防除

○病害虫防除所の発表では、平年より発生が「早い」と予測されています。

○着雷期から開花始期の多湿条件で発病しやすくなります。予防防除に努め、降雨が予想される場合は、ダブルインターバル(14日間の防除間隔)効果のある薬剤を使用しましょう。

(2) 軟腐病の防除

○高温多湿条件で発生が多くなります。また、倒伏等により茎葉が傷つくと発生が助長されるため、気象・茎葉の生育状況に合わせて防除を行きましょう。

○オキシリニック酸剤およびストレプトマイシン剤は耐性菌が出現している地域があります。

こまめな水分補給で熱中症対策を！

農薬のドリフトに注意！！

安全確認で農作業事故防止！

